

## 話芸を味わい大笑い 交流センターで本格寄席



見事な話芸で会場をわかせた三遊亭兼好師匠

3月18日、交流センター「ふれ愛館」の自主文化事業「いいいて寄席」が、同センターで開催されました。会場には、友人同士や家族連れに混じって、本格落語をじっくり味わおうというお一人様もちらほら。三遊亭兼好師匠らによる「時そば」「蜘蛛駕籠(くもかご)」などの古典落語と、「めおと楽団ジキジキ」のステージを、大笑いして楽しみました。笑いすぎて涙を流す人も続出で、来場者は「来てよかった」「あごがはずれるほど笑った」と満足そうに会場を後にしていました。

## 企業の復興を後押し 企業立地審議会を開催



企業立地に関する情報を審議し施策に生かします

2月21日、村役場本庁で、飯館村企業立地審議会が開催されました。  
企業立地審議会とは、村内に立地する企業に関連する施策を適正・円滑に行っていくための審議を行う機関で、関係機関の代表や村議会議員らが委員を務めています。  
この日は、新たに工場を増築する企業の情報などを共有し、かかる村の施策について審議を行いました。また、今後の企業立地施策についても、現状を確認しながら意見を交わしました。

## 運転終了の小宮仮設焼却炉 思い託し民芸品を製作



小法師となった運転員の背には村の形のリュック

小宮仮設焼却炉は、屋内の片付けごみを約3,000トン焼却し、3月3日に焼却運転を終了しました。この運転終了にあたり、施設管理職員らが、「起き上がり小法師」を製作しました。七転び八起き「起き上がり小法師」に、村の復興への思いを託し、喜多方市の工房に製作を依頼したもので、完成した60個を、村や事業関係者に贈りました。運転を終了した焼却炉は、解体に向けて4月から準備工事を行い、年内を目処に、適正な管理のもと解体撤去されます。

## 火災が多発する季節を迎え 仮設住宅を「防火訪問」



各戸を訪ねて「火の用心」を呼びかけました

春先は空気が乾燥し、例年火災が多く発生しています。この警戒期に合わせて、3月5日、消防団らによる「防火訪問」が、松川第一応急仮設住宅97戸、松川第二応急仮設住宅68戸で実施されました。防火訪問を行ったのは、消防団、女性消防隊、南相馬消防署飯館分署の合わせて16人です。防火を呼びかけるチラシ、チェックポイントを記した「火の用心トイレットペーパー」を配りながら各戸を訪ね、仮設住宅ならではの注意点などを、具体的にアドバイスしました。

## 村の文化財を記録した 冊子が完成しました



2年をかけて村内の文化財を取材し制作しました



飯館村文化財記録保存事業実行委員会(佐藤俊雄委員長/草野)制作の冊子が完成しました。タイトルは「いのり・ねがい・こころのタイムカプセル 飯館村社寺文化財」。村内の社寺や祠、それに残る仏像や文化財について、写真で紹介しています。「平成28年度コミュニティ助成事業(宝くじ助成金)」を活用して制作されました。佐藤委員長は「貴重な文化財が予想以上にあると分かり、村の文化を再認識しました」と活動の手応えを話していました。

## 復興を支える大きな力 飯館村婦人会が総会を開催



避難指示解除をみすえて次年度事業を協議しました

3月12日、飯館村婦人会が、平成28年度の総会を開催しました。婦人会は、長期化した避難の中も、協力して活動を続けてきました。飯野学習センターで行われた総会には菅野村長、大谷村議会議員長、菅野社会福祉協議会長が来賓として出席し、会の功績に感謝を述べました。また、会員は36人が出席し、28年度事業の報告や29年度事業の計画を協議。今後も会として、地域・村民をつなぐ活動を、現状に合わせて、できる範囲で続けていこうと申し合わせました。